

## チャン・フーホン

2014年10月17日

最近行なわれたイスラエル中国御国計画会議(Maoz とリバイブイスラエルの協賛)では、光栄なことに、中国の家の教会の父、5人のうちの1人、チャン・フーホンにお目にかかることが出来ました。以下は彼がシェアしてくださった内容です。

### 第1部—証し

1979年、私は重い病に冒され、口以外は動かすことが出来ない状態でした。毎日泣き腫らし、遂には自分が生まれた日を恨み、自殺を考えました。



当時中国にはほんの少数のクリスチャンしかいませんでした。遠く離れた村に住むあるクリスチャン男性に双子の娘がいましたが、連れ去られ奴隷として売られてしまいました。彼が娘を捜しにきたときに(娘は見つからずじまいでしたが)、病気のことを聞きつけ、私の所に来て、救いについての「良い知らせ」について教えてくれました。そのときに自分のところに新しい希望を受取ったのです。

私は癒されるように祈り始めました。1週間昼も夜も祈りました。何も起らないかのように思いましたが、ある朝起き

てみると自分の布団が床の上に落ちているのを見て、自分が動いたに違いないと気付きました。起き上がって座り、ベッドから立ち上がり、階下へ下りていきました。皆は啞然としてました。家族全員が主を受入れました。

次の週、私たちは家を開放して何が起きたのかを人々に話しました。近所の村からのクリスチャンを含み200人が来ました。その中から、私の村の60人が主を受入れ、我が家で、一晩の内に家の教会がスタートしたのです。

私たちには全く聖書がありませんでした。別の村のある人が、新約聖書の一部だけでいくつかの巻が遺失しているものでしたが、聖書を1ヶ月だけ貸してくれました。何をして良いか分からなかったので、それを返す前に、その聖書を書き写しました。

(つい最近、40年を経た後、私に福音を伝えてくれた人の双子の娘たちの居所が分かり、家族が回復されたのです。)

## 第2部 一家の教会

1949年に毛沢東は外国人宣教師と事業家たちを追放しました。現地のクリスチャン指導者たちは投獄されました。1949年から1979年は苦しみに溢れた暗黒の時代でした。人々は泣き叫び祈りました。1979年新主席、鄧小平は「開放政策」を開始し、いくつかの事業者や商売人に帰ってくることを許しました。

当時2つタイプの教会がありました。1つは政府に登録した教会(三自愛国教会)、もう1つは登録していない教会で、多くは村々にありました。私たちは田舎にいて、登録された教会へはアクセスできません。またその組織は馴染みがなく何か西洋的で、しかも聖書的ではないものです。何をしても良いか分からず、使徒の働きを読み始めましたが、そこには全ての答えがあったのです。この新しい家の教会運動が原点の使徒的な伝統を回復しているように感じました。

(近年、登録している教会と登録していない教会間の関係回復がされています。)

使徒の働き 1:8 のエルサレムから地の果てまで、ちからを得て証人となることを信じています。私たちには聖霊の火があり、癒しと悪霊からの解放があります。私は多くの村を廻り、私の体験を証していました。7年間で、全会員数約3万人からなる200の教会を始めました。

1983年には、強い迫害の新しい波がやってきました。私は自分の村に5年間、住んでいることが出来ませんでした。たまに闇夜に紛れ、両親に会いに行くのがやっとでした。年長の中国人信者たちは散らされ迫害を受けました。苦しみがそれほど彼ら人生の一部となっていたので、牢獄に入ったことのない若いクリスチャンの一部には、「神さま、なぜ私は牢獄へも行かずのうのうとしているのでしょうか？私が何か罪を犯したというのですか？何が悪いのですか？」と祈っていた程でした。

村のクリスチャン指導者たちは殴られ、銃殺され、絞首刑にされました。多くが何度も牢獄に入れられ、女性は素っ裸にされました。私の妻は「あなたは監禁される賜物があるよ」とよく言ったものです。多くの牧師たちは聖書を持つこともなく訓練も受けていませんでした。

最初の殉教者、ステパノの死にまつわる迫害の始まりに連動して福音が広まっていること(使徒 8:1)と同じことが、私たちの内にも起ったのです。1979年に70万人いた中国のクリスチャンは、私どもの家の教会運動は、7千万人の信者に成長—何と百倍の成長です。

### 第3部—エルサレムへ戻れ

中国教会は世界で最大の教会を形成し、一方イスラエルのメシアニックレムナント（残された者達）は最小のものです。それでも、私たちはあなたがたを「兄」とみなしています。元々の使徒たちは根っこで、全ての枝を生やしています。私たちはあなたたちの元へ返ってきたのです。イエスさまの家族にあって私たちは1つなので、「希望のない」者ではありません。

ユダヤ人はなぜ歴史の中で、それほどまでに苦しみを受けたのでしょうか？イスラエルの回復は神さまの業であり、メシアニックレムナントの回復も同様です。多くの中国人がイスラエルを訪れ、そこで何が起っているかを見、イエスさまの信者となっているのです。

1920年代に中国では初期のリバイバルを経験しました。それら初期のクリスチャンたちは、その福音を地の果て（中国）からイスラエルに戻すビジョンが与えられました。彼らはその「イスラエルへ戻れ」運動に自身を捧げました。彼らはユダヤ人から永遠のいのちを受けたと感じ、その同じ恵みを彼らに返そうと望みました。

そして彼らの多くがエルサレムに向かって、先ず徒歩で中国西域へと出発しましたが、1949年に共産党が権力を握ってからは、中国国境が固く閉じられました。そして、彼らが出国できなかったため、国境近くの新疆省に共同体を組織しました。

何十年もの間、これらの若いクリスチャンたちはこのビジョンを持って祈り続け、やがて齢を重ねました。私たちの牧師たちが同じビジョン受け取ったとき、彼らに会いに行きました。既に多くの方は亡くなっていました。私たちと会った長老たちにこう告げました。「大丈夫です、私たちがアラビアへ、エルサレムへ行きます」。彼らは「主よ、これであなたのしもべはあなたの元へ行くことができます。」と言って私たちをハグしました。

中国教会は、イエスさまを愛し、イスラエルを愛し、アラブ人を愛しています。今日私たちはここで、あなたがたをハグします。日が東から昇るように、リバイバルがエルサレムへ戻るのです。

